

士別市まちづくり懇談会（温根別地区） いただいたご意見

■日時：令和 7 年 7 月 30 日 午後 6 時から

■会場：温根別出張所会議室

■市参加者：渡辺市長、泉山教育長、大橋総務部長、三上市民部長、東川健康福祉部長、坂本経済部長、藪中建設環境部長、丸生涯学習部長、池田経営管理部長、増田企画課長、久光企画課管理監、萩田企画課副長、企画課職員

■市民参加人数：9 人

（１）総合計画の基本的な考え方について【資料 1】

■ご意見 1

- ・「憩いの広場」は、約 20 年間にわたり地域住民が無償のボランティアで管理・運営してきた、地域にとって極めて重要な場所である。しかし、深刻な人口減少と高齢化により、管理作業を担う人材が枯渇し、管理用の機械も老朽化している。このままでは、住民の努力で築き上げてきた施設が立ち行かなくなるという強い危機感がある。市の助成金には感謝しているが、今後の維持のためには、市のより一層の協力と支援が不可欠である。
- ・旧中学校体育館は、ピンポン愛好会やカラオケ、月例会など、高齢者にとって健康維持と地域交流を図る上でかけがえのない拠点となっている。特に、市の柔軟な対応により住民が自由に施設を利用できていることに深く感謝している。この施設が今年度で利用できなくなると聞いており、このような貴重な場を失いたくない。
- ・人口減少という厳しい現実の中でも、住民は婦人会と協力して花壇を整備するなど、地域を明るくしようと懸命に努力している。施設の統廃合という方針を示すだけでなく、こうした住民の活動や思いに寄り添い、地域と共に未来を考える姿勢を市に求めたい。

■回答 1

- ・温根別地区の主体的な活動に心から感謝しており、行政として今後も地域の「やりたいこと」を後方支援する姿勢に変わりはない。一方で、指摘された「担い手不足」は市全体が直面する根本的な課題と認識している。これは一朝一夕に解決できる問題ではなく、人材育成なども含め、国とも連携しながら中長期的に取り組む必要がある。人口減少が進む中で、将来世代に過度な財政負担を残さないためには、施設の集約・最適化は避けられない苦渋の決断である。温根別小学校の跡地利用については、既に地域の実行委員会と協議を進めており、地域の意見を尊重しながら活用法を検討していく。

■ご意見 2

- ・体育館などの施設維持について、単に冬期の燃料費だけを問題視するのではなく、多角的に判断すべきである。例えば、住民が暖房を使い施設を利用することで、結果的に市が負担するはずの「屋根の雪下ろし費用」が不要になっているというメリットもある。このような間接的な効果も考慮し、より賢明な経費の使い方を検討してほしい。

■回答 2

- ・指摘の通り、施設の維持管理費は総合的に検討する必要がある。屋根の除雪は市全体の課題であり、関連部署間で知恵を出し合い、引き続き効率的な管理方法を検討する。

(2) 持続的なまちづくりについて【資料 2】

■ご意見 1

- ・大ホールの機能が朝日サンライズホールへ統合された後、士別市街地に代替となる施設はあるのか。また、現在の文化センター内にある小ホールは今後も利用できるのか。

■回答 1

- ・大ホールと文化センターの他の施設（小ホール、経済部庁舎等）は建物が別であるため、小ホールは引き続き利用可能である。ただし、ステージの規模や設備が大きく異なるため、合唱や吹奏楽など、大ホールでしか実施できなかった規模の催しは、サンライズホールを利用してもらうことになる。

■ご意見 2

- ・これほど地域にとって重要な施設の統廃合について、もっと早い段階から情報を提供し、十分に時間をかけて住民と協議するべきだったのではないかと。なぜこの施設を廃止するのか、その判断基準となった利用率などの具体的なデータを示し、住民が納得できる丁寧な説明プロセスが欠けている。短期間で決定事項のように話を進めることは、住民の反発を招くだけである。

■回答 2

- ・市民への提案が遅れた点については、内部での調整に時間を要したことが原因であり、深く反省している。今回提示した廃止・統合の時期はあくまで「現段階での市の考え」であり、最終決定ではない。これは、議会からも「市の目標時期を具体的に示した上で議論を進めるべき」との指摘があり提示したものである。決して、この日程で決定したと押し付ける意図はない。本日いただいた意見を真摯に受け止め、11月に予定している次の懇談会に向けて議論を深めていきたい。今後、地域の皆様との対話を重視し、早めの情報提供に努める。